

# 心おれない、しなやかに・・・

## ——山城博治さん熱く語る——

152日の不当勾留から釈放された山城博治さんは全国で沖縄の熱い風（沖縄の闘いの思い）を語っています。

昨年7/22、全国から500名の機動隊、そして沖縄の機動隊とあわせて1000人の警官を送りこんでの高江のヘリパット反対市民への強制排除行動。機動隊にやられても、そこで三しんで歌い踊る運動。“心おれない。しなやかに闘いつづける”庶民の闘いの大切さを語りました。

沖縄には100か所もオスプレイの訓練基地があり、佐賀空港に自衛隊の導入する17機のオスプレイが配備されればその周辺に訓練基地がつくられていくと、その危険性を指摘。

又、沖縄から遠い木更津駐屯地を沖縄からの24機、自衛隊の17機の整備拠点にすることは、修理を理由に沖縄から木更津まで遠洋航行の訓練をすることになるし、オスプレイ全国配備の為の整備拠点化であると厳しく批判しました。“空飛ぶ棺桶”オスプレイは市民の“生命”を守るために絶対反対と、NOをNO！と言い続ける運動を全国で展開していこうと提起。



山城さんは威力業務妨害罪・傷害罪・公務執行妨害罪などの容疑で裁判されるが「この裁判で問われるのは生命を守るために反対する私たちではなく1000人も機動隊を沖縄に送りこみ弾圧した政府の暴力こそ問われるべき。問われるのは政府だ！」と訴えました。

76日の拘置所、76日の拘留所での不当な拘留中の経験も語ってくれました。警察・司法は「自白しろ」「現地に行くな」と強要してくる。不安からしゃべったりすると（心に反して）自白へ持っていかれるとその様子を説明。「黙秘が必要」と語りました。

「沖縄の与那国島・宮古・石垣島に基地がつくられており、まるで米国と中国とが戦争を始めるかのように言われているが、米中の本格的戦争はあり得ない。しかし小競り合いからそれを口実に一挙に戦争体制に持っていかようとしている安倍政権」と厳しく批判しました。

そして「沖縄は平和でいたいだけ」「戦争の為の基地はいらない」「戦争のない時代をつくろう」と沖縄の熱い心を訴えました。

今こそ立ち上がろう！　今こそ奮い立とう！